

環日本海域の環境研究における金沢大学21世紀COE の役割

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 早川, 和一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/5598

環日本海域の環境研究における金沢大学 21 世紀 COE の役割

金沢大学 21 世紀 COE 拠点リーダー

早川 和一

日本及びロシア、中国、モンゴル、韓国、北朝鮮は、世界でも大きな人口を抱え、産業や経済が急速に発展しています。これらの国々から大気や水に排出される物質は、環境汚染の原因となるばかりでなく、自然由来の物質と相まって環境変動を誘発する大きな要因と考えられます。これらの諸国に囲まれた日本海は両端が狭い海峡で、人為的原因による化学物質や放射能汚染の影響をきわめて受けやすい海域です。

金沢大学の 21 世紀 COE 「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」は、平成 14 年度より、この環日本海域の豊かな自然資源を保全し、今後の災害を未然に防止し安全で豊かな国際社会を形成するために、大学院自然科学研究科の 20 名の教員が中心となって、高感度環境計測法の開発とそのデータ情報ネットワークの構築、それに基づく環境変動の予測、有用資源の保全と有効活用、災害防止に関する国際共同研究教育を進めています。

しかし、これまで環日本海域の環境調査研究は個別には進められていても、関連の国々や国内の自治体、機関との協力が少なく、総合的な情報の集積と提供は十分ではありません。しかも、環日本海域の環境変動や汚染は、関連諸国の産業経済や政治と密接に連動しています。そこで、国内外の大学や研究機関、行政機関の専門家がこれからの環日本海域の環境研究について戦略的に話し合い、相互に補い、協力していくために、「環日本海環境戦略研究機構」を立ち上げ、今回のシンポジウムにおいて、その初めての会議を開催することにしました。この会議の成果が、今後の環日本海域の環境研究と政策に反映されることを願ってやみません。